安心・安全な利用のための知識とマナーの啓発活動

通信の仕組みや安全な使い方などを楽しく学べる「NTTドリームキッズ ネットタウン」を全国で開催

NTTグループ

NTTグループでは、次世代を担う子どもたちに、情報通信サービスの楽しさや便利さとともに安心・安全な利用のためのルールやマナーを学んでもらう場として、毎年、子ども向けイベント「NTTドリームキッズ ネットタウン」を、夏休みに開催しています。

本イベントは、NTT、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、NTTデータが共同で実施し、2013年度で8回目の開催となります。対象は小学3年生から6年生で、保護者同伴のうえ、無料で参加していただけます。今回も前年度に続き、東京、仙台、札幌、名古屋、京都、福岡の6会場で開催し、計約1,700人の子どもたちが参加しました。

インターネットやスマートフォンなどを実際に体験しながら、その仕組みやサービスのほか、利用する際の基本的なマナーや注意点なども楽しく学べ、夏休みの自由研究にも役立つ内容となっています。参加した子どもたちからは「身近なところでインターネットが役に立っているのがわかった」「わからないところを自分で解決できて面白かった」。また、保護者の方からは「通信の楽しさだけなく、決まりやルールなどもわかりやすく伝えてくれたのでとてもよかった」といったお声をいただいています。

また、イベント期間中は、会場に来られない子どもたち向けにWeb上に学習サイトも開設しました。

今後も、体験コーナーに、スマートフォンの最新アプリやクラウドサービスの便利さ、楽しさを体感できる内容を追加するなど、イベント全体がより楽しく充実したものになるよう工夫していきます。

イベントの様子

出張授業「ネット安全教室」を開催

NTT東日本

インターネットや携帯電話を使う子どもたちが増えるにつれ、ICT時代ならではのトラブルも増加しています。そこで、NTT東日本グループでは、小学校などへ社員を派遣し、ICT時代のコミュニケーションの取り方やマナーをテーマに出張授業「ネット安全教室」を、2006年度から毎年、実施しています。

2013年度も全国で、延べ2,010校、179,862人の子どもたちが受講しました。子どものインターネット事情にあわせて、小学校低学年向けと高学年向けのカリキュラムとツールを用意しており、授業内容の充実を図っています。また、こうした取り組みを「ネット安全教室ブログ」でお伝えしており、より身近に活動内容を知っていただけるよう取り組んでいます。

今後も、多くの子どもたちにインターネットへの理解を深めてもらうことが、私たちに課せられた責任だと考え、最新のインターネット事情などに即したカリキュラムなどを提供し、子どもたちへインターネットの適切な利用方法を伝えていきます。

安心・安全な利用のための知識とマナーの啓発活動

インターネットのトラブルから子どもたちを守る「e-ネットキャラバン」に講師を派遣

NTT東日本　NTT西日本　docomo

NTT東日本、NTT西日本、NTTドコモは、総務省などが開催している「e-ネットキャラバン」に、社員を講師として派遣しています。

e-ネットキャラバンは、ウイルス、迷惑メール、個人情報漏えい、架空請求詐欺など、インターネットが引き起こすトラブルから子どもたちを守るために、主に児童・生徒の保護者と教職員向けに、安全なインターネット利用についての講演などを実施するものです。2006年度から、全国キャラバンとして実施されています。

大人向け、小中学生向け、中高生向けの講座があり、大人向け講座のテキストは「e-ネットキャラバン」のWebサイトからダウンロードすることもできます。講座内容はスマートフォンの急速な普及に対応するため、総務省などの協力を得て、すべての対象者向けの講座でテキストをスマートフォン対応版に変更しました。また、スマートフォンの普及にともない利用者が増えている無料通話・メールアプリ「LINE」を使ったいじめや、スマートフォンによるオンラインゲーム依存症などをテーマとした再現ビデオを制作し、講座での使用を開始しました。

2013年度は、NTT東日本が115回、NTT西日本が114回、NTTドコモが79回にわたって講師を派遣し、全国の参加者数は保護者・教員が11,012人、児童・生徒は31,253人にのぼりました。（NTT東日本：保護者・教員4,310人、児童・生徒11,727人、NTT西日本：保護者・教員4,268人、児童・生徒11,202人、NTTドコモ：保護者・教員2,434人、児童・生徒8,324人）

WEB **「e-ネットキャラバン」**
http://www.e-netcaravan.jp/

「e-ネットキャラバン」のWeb画面

スマートフォンに関する内容を強化し、「ケータイ安全教室」を全国で開催

docomo

携帯電話をめぐる事件やトラブルが社会問題のひとつとなるなか、NTTドコモでは、2004年から全国の学校や地域の生涯学習センターなどで、「ケータイ安全教室」を開催しています。社員を中心としたインストラクターを派遣し、子どもや高齢者の方々を対象に、携帯電話使用時のルール・マナーや事件・トラブルへの対処方法などを説明しています。

小学生（高学年）向けの「入門編」、中学・高校生向けの「応用編」から、保護者・教員向け、シニア向けとメニューを順次拡大し、障がいのある子どもたちが通う特別支援学校向けのメニューも提供しています。

2013年度も、小中高校や特別支援学校、地域生涯センターなどで計約6,900回開催し、約98万人に受講いただきました。2004年の開催からの累計受講者は、2013年3月末に600万人を突破しました。

最近は、急速に普及しているスマートフォンに関する内容を強化しています。2013年度の教材にはスマートフォンに対応する内容を追加し、シニア向け教室で使う端末にも「らくらくスマートフォン」を追加しました。

2014年度からは、スマートフォンの利用拡大にともなうさまざまな問題に対応するため、カリキュラムを全面改定して実施しています。

また、NTTドコモでは、これらの出張教室のほか、自治体向けの講演会などで、携帯電話のフィルタリング機能の重要性や「ケータイ安全教室」の周知を行い、携帯電話の安全利用の啓発に取り組んでいます。

シニア向け教室

青少年向けの「あんしんモード」に「歩きスマホ防止機能」を追加

NTTドコモは、スマートフォンの画面を見ながら歩行する「歩きスマホ」による事故防止とマナー向上を図るため、青少年向けに提供しているスマートフォンの機能を制限する「あんしんモード」アプリに、「歩きスマホ防止機能」を追加し、2013年12月から提供しています。

この機能は、スマートフォンを見ながら歩くと、歩行中であることを検知して警告画面が表示され、画面が表示されている間は、スマートフォンが操作できなくなる機能です。使用料は無料で、「あんしんモード」アプリをインストールし、「歩きスマホ防止機能」の設定をすることで、利用いただけます。

本機能は、歩きスマホの危険性が特に高いと思われる青少年を事故から守るために提供しています。「あんしんモード」をはじめ、フィルタリングサービスに関する案内パンフレットなどで周知し、青少年への利用を呼びかけています。

今後も、より安心・安全にスマートフォンを利用していただけるよう、サービス性・利便性の向上に努めていきます。

警告画面

子どもの安全確保のためのサービス提供

子どもたちを性犯罪から守るため、児童ポルノサイトのアクセス制限や流通防止対策を実施

NTT Communications　docomo

児童ポルノのブロッキングは、児童の権利保護と安全・安心なインターネット利用環境の確保のために重要な課題です。NTTコミュニケーションズとNTTドコモは、2011年3月に、児童ポルノアドレスリスト管理団体として設立された一般社団法人インターネットコンテンツセーフティ協会（ICSA）の加盟企業として、児童ポルノサイトのアクセス制限に取り組んでいます。

ICSAの会員企業であるISP（インターネットサービスプロバイダ）各社に対しては、ICSAから児童ポルノアドレスリストが提供されています。NTTコミュニケーションズグループのISP であるOCN、ぷららでは、ICSAが提供するリストをもとに、2011年4月から児童ポルノ画像などを掲載するサイトへのインターネットアクセスを遮断するブロッキングを実施し、閲覧制限を実施しています。また、グループが運営するポータルサイトgooについても、提供リストを活用し、検索エンジンのデータベース上に同様の情報があった場合、削除するなどの対応を行っています。

さらに、NTTドコモのインターネット接続サービスであるiモード、spモード、mopera U、docomo Wi-Fiでも、2012年5月24日から、ICSA提供のリストをもとに、児童ポルノブロッキングを実施しています。

しかしながら、ファイル共有ソフトを悪用した児童ポルノ画像の流通は、ブロッキングで防止することができず、ファイル共有ソフトを悪用した児童ポルノ画像の送致件数が増加しています。そこで、NTTコミュニケーションズはICSAや警察庁と連携し、OCNにおいて、ファイル共有ソフトを悪用して児童ポルノ画像を流通させているお客さまに対して、該当画像の削除を喚起する取り組みを、2014年4月1日から開始しています。

NTTグループでは、今後もICSAと連携して児童ポルノ流通・拡散防止対策を推進し、児童に対する権利侵害の防止に寄与するとともに、安全・安心なインターネット利用環境の確保に取り組んでいきます。

ネットいじめなどの原因となる問題投稿を高精度に収集する「評Ban」Ver.3.1を提供開始

NTTIT

SNS（ソーシャルメディアネットワーク）や掲示板を使った悪質なネットいじめの問題が後を絶ちません。NTTアイティは、掲示板への悪質な投稿による被害を最小限に抑え、問題の早期解決に貢献するクラウド型サービス「評Ban」Ver3.1の提供を、2013年11月から開始しています。

ネットいじめの問題を早期に把握するためには、SNSや掲示板などのソーシャルメディアを常時監視し、問題投稿を発見する必要があります。しかし、ソーシャルメディアから集まる情報は極めて膨大で、そのほとんどが問題把握に必要のないノイズ情報のため、ノイズを除去し、高精度に問題を抽出することが課題になっていました。NTTアイティが2012年から提供を開始していた「評Ban」は、ソーシャルメディア上に存在する評判情報をリアルタイムで収集・解析してメールで即時通知するクラウド型サービスですが、バージョンアップした「評Ban」Ver3.1は、膨大な情報の中からノイズを除去する能力を大幅に強化。問題投稿などの重要な情報を高精度かつ即時に把握することが可能になりました。

また、「評Ban」Ver3.1では監視メディアも拡大し、情報収集対象にユーザー数の多いブログサイトを追加し、より多くのメディアからの情報収集が可能になりました。さらに、Twitterのリツイートによって情報が拡散される状況を把握する機能を追加したことで、問題投稿の広がりや収束の動向を容易に把握することも可能です。

NTTグループウェブアクセシビリティポリシーの制定

NTTグループ

NTTグループは、高齢者や障がい者の方々を含む幅広いお客さまにWebサイトをご利用いただけるよう、アクセシビリティの確保と向上に取り組んでいます。

NTTグループでは、2014年3月に、「NTTグループウェブアクセシビリティポリシー」を制定し、日本国内に本社機能を持つNTTグループ各社の公式ホームページについて、JIS X 8341-3:2010※1にしたがって方針を定めています。アクセシビリティ対応の程度を示す「達成等級」は、等級A、等級AA、等級AAAの3段階があり、NTTグループは等級AAに「準拠※2」することを目標としています。

2014年3月には、NTT公式ホームページのトップページを達成等級AAに準拠させ、トップページ以外の対象ページも順次等級AAに準拠させる予定です。

今後とも、NTTグループウェブアクセシビリティポリシーに基づき、NTTグループ各社の公式ホームページのアクセシビリティ対応を進めていきます。

※1 JIS X 8341-3:2010
日本工業規格「高齢者・障害者等配慮設計指針ー情報通信における機器，ソフトウェア及びサービスー第3部：ウェブコンテンツ」のこと。

※2 情報通信アクセス協議会ウェブアクセシビリティ基盤委員会「ウェブコンテンツのJIS X 8341-3:2010 対応度表記ガイドライン 第1版 - 2010年8月20日」で定められた表記に準ずること。アクセシビリティポリシーを策定・公開し、JIS X 8341-3:2010に基づく試験を実施して、達成基準をすべて満たすことを確認したことを表す。

NTTグループ公式ホームページの画面

グループ各社でユニバーサルデザインの普及を推進

NTTグループ

NTTグループでは、すべてのお客さまにとって利用しやすい商品やサービスを実現する「ユニバーサルデザイン」の普及に取り組んでいます。

NTT

NTTサービスエボリューション研究所において、2013年度は、NTTグループの公式ホームページのアクセシビリティ（アクセスのしやすさ）対応を推進するため、「NTTグループウェブアクセシビリティーポリシー」の策定を支援しました。また、NTTグループ主要8社に向けたウェブアクセシビリティ勉強会でも講師を務めました。

その他の取り組み例

- 新たなサービスの検討に役立てるために、お客さまのご家庭での生活スタイルについてまとめた「ユーザの日常生活データ集」を作成
- 高齢者向けサービス検討の参考となる「シニアのコミュニケーションニーズ別課題集」を作成
- 色覚障がいのある方にも識別できる配色かのチェックと改善を支援する「Web配色アクセシビリティ評価手法」を確立

NTT西日本

NTT西日本で取り扱う情報機器を紹介するWebサイト「情報機器ナビゲーション」では、福祉電話機のお試し利用のお申し込みをしていただける取り組みを2011年度から実施しており、年間約100件のお申し込みをいただいています。情報提供についても、すべてのお客さまの利便性やわかりやすさに配慮し、Webサイトは文字の大きさを3段階に変更していただけるように設計しています。今後もお客さまのお声を踏まえ、サイトの利用しやすさについても改善に努めます。

その他取り組み例

- 車いす利用者用公衆電話や受話音量調節機能を装備した公衆電話の設置
- 大きく見やすいダイヤルボタンと文字、わかりやすい液晶表示などのユニバーサルデザインを採用したデジタル公衆電話の設置

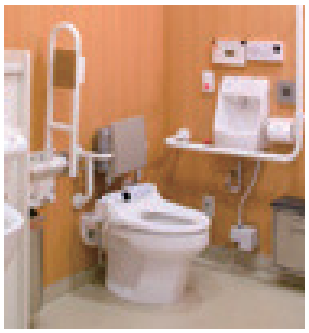
ユニバーサルデザインの推進

- 聴覚障がいのある方のために、声を耳の後ろなどの骨に振動させて伝える骨伝導方式の電話機を提供

docomo

2013年度末現在、全国のドコモショップのうち、入口については9割以上、トイレは8割以上、駐車スペースは7割以上、カウンターについては9割以上がバリアフリー化店舗となっています。この結果、バリアフリー化項目のうち1項目でもバリアフリー化したドコモショップの割合は、全体の約99%に上っています。聴覚に障がいのある方への配慮として、一部店舗では「簡易筆談器」や「手話サポートテレビ電話」を配備しています。

応対の様子


車いす対応トイレ

NTT DATA

NTTデータは、「使いやすい」情報システムやITサービスを提供するため、さまざまな方向から取り組んでいます。特に、情報システムやITサービスのアクセシビリティの向上や、多様な色覚に配慮するための「カラーユニバーサルデザイン（CUD）」の推進に力を入れています。情報システムやサービスの開発においては「ユーザビリティ評価」を取り入れ、ユーザビリティを向上させるためのノウハウを体系化し、開発に適用しています。また、画面だけではなく、取扱説明書をはじめとするユーザ・マニュアルの「使いやすさ」にも取り組んでいます。

これらの取り組みは社内研修の実施などを通じて社内で共有し、社員の意識やスキルの向上に努めています。

アクセシビリティ普及のための研修・講演に加え、グループのウェブアクセシビリティ対応を支援

NTTクラルティ

NTTクラルティは、だれもが利用しやすいアクセシビリティに配慮したWebサイトを作成するポイントやユニバーサルデザインなどについて、Webサイトに関わる方々や障がい者支援に関わる方々に理解していただくために、さまざまな研修や講演を実施しています。

2013年度も、地方自治体のホームページ更新担当者などに向けて、アクセスしやすいサイトにするための研修を実施したほか、全国で開催されているNPO法人ウェブアクセシビリティ推進協会のセミナーや首都圏の大学において、障がい者の立場からウェブアクセシビリティの必要性やバリアフリーについての講演を実施しました。NTTグループ内においても、手話講習会をはじめ、障がい者への理解を深めてもらうための研修を実施しました。

また、2013年度は、NTTグループ各社の公式ホームページにおけるウェブアクセシビリティ対応を推進するための活動に積極的に取り組みました。NTTおよび各グループ会社の幹部や部門責任者などに対し、ウェブアクセシビリティの必要性を説明したほか、2014年3月には、障がい者の視点を交え、JIS企画に基づきNTT公式ホームページのウェブアクセシビリティ診断を実施。「NTTグループのウェブアクセシビリティポリシー」および「NTT公式ホームページアクセシビリティーポリシー」の策定を支援しました。2014年4月1日には、当社内に「アクセシビリティ推進室」を設置。NTTグループ各社からのアクセシビリティ診断や研修の依頼増に対応できる体制を整えました。

今後も、専門知識を持った障がい者自らが、ウェブアクセシビリティ診断や研修を実施できる強みを発揮し、グループはもとより、公共機関や民間企業のホームページのウェブアクセシビリティ向上に貢献できるような取り組みを推進していきます。

障がい理解についての研修の様子